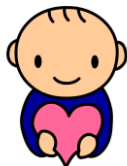


プラス1



～いつもの支援を一工夫～

岐阜県立東濃特別支援学校
地域支援センター通信
No. 41 (H30. 12月号)



学校祭！ご協力ありがとうございました！

11月17日に瑞浪市総合文化センターで「キラキラハッピー学校祭」を開催しました。日頃の学習の成果を発表することや、地域の皆様とつながることをテーマに企画しました。

ステージ発表だけでなく、作業販売や地域の児童生徒の作品展示、たくさんの関係機関の皆様の発表や展示、販売等、さまざまな催しものがそろい、大盛況のうちに幕を閉じることができました。たくさんのご協力ありがとうございました。

にぎやかで楽しい行事ですが、日常の生活と違う活動が苦手な子どもたちは本校にもたくさんいます。行事となると教員も児童・生徒も、当日いい姿を見せることに意識が行き、練習においてもできるようになるための支援になりがちです。12月号の裏面のトピックスでは、それぞれの行事や授業、日常の生活において、その子その子につけたい力を明確にして活動内容や支援の仕方を考えることについて取り上げました。ぜひご一読いただき、今後の指導のヒントになれば幸いです。

～本校で行われる研修のご案内～

岐阜県立東濃特別支援学校

性教育 研修会

知的障がいの子どもの性の悩み、一緒に考えましょう！
～性の指導実践～についてご講演いただきます！

日時 **1月11日(金) 15:50**～
場所 **東濃特別支援学校 第3棟作業室**
講師 **船木 雄太郎 先生**
(大阪府立刀根山支援学校 大阪精神医療センター分教室 首席養護教諭)



<講師の先生から>大阪府初の男性養護教諭。教師歴17年目。知的障がいの生徒への性の指導に力を入れてきました。これまでの経験をお伝えし、参考にしていただけばと思います。

<申し込み・お問い合わせ>
岐阜県立東濃特別支援学校 地域支援センター
TEL 0572-55-4821

岐阜県立東濃特別支援学校 公開授業研究会



【研究会の趣旨】
環境設定や学び合いの工夫、ITの活用の仕方等を探求し、児童生徒が「楽しい」と感じる授業を目指すとともに、特別支援教育に携わる教員としての資質向上を図ります。

【日程】
★公開授業Ⅰ
13:15～14:10
★公開授業Ⅱ
14:10～15:00
★ビデオ授業視聴
15:00～15:45
★講演会
16:00～17:00

【会場】
岐阜県立東濃特別支援学校
☆講演会のみ参加も受け付けます。

【講師】 **安田 和夫 先生**
(岐阜聖徳学園大学教育学部 特別支援教育専修 教授)

2019. 1. 18 (金)
みんなが「楽しい」と感じる授業づくり
～学びを支えるチームカ～
私たちと一緒に学びませんか。
皆さまのご参加をお待ちしております。

お問い合わせ・お申し込みは下記までお願いします。
岐阜県立東濃特別支援学校 地域支援センター
担当：保母・水上
TEL: 0572-55-4821

つけたい力を明確にして授業や活動に取り組んでいますか？

Aさんは、自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する自閉症スペクトラム障がいの診断がある中学1年生です。入学当初は、学校の流れが自分の思い込みと違ったり、教科担当者の指示に戸惑い、応じることができなかつたりしました。しかし、学級の仲間との人間関係が友好的な形で改善されたことで、さまざまなことに挑戦できるようになってきました。その中で困ったときや失敗しそうなときに支援を求めること、不安感が強く学習意欲が低いこと、記憶に弱さがあることに課題があります。

さて、今回は、Aさんの日常生活場面や学習場面で生じている困難さを改善・克服するために『自立活動の指導』の授業をポイントを押さえながら組み立てたいと思います。

ポイント① 行動の背景や理由、興味・関心、得意なことを把握する

Aさんが困ったときに支援を求めることが難しい状況を単に「困った状況で支援を求められない」とするのはなく、「どうして支援を求められないのか」と考えていかなければなりません。Aさんの言語面や対人面からも考えて「どのように相手に聞けばよいか分からない」「これまでの失敗経験があり、相手に向かって話すことから逃避しているのではないか」とも考えられます。

ポイント② 長期目標と短期目標の設定と具体化

実態から優先すべき課題をピックアップします。このとき、担任だけでなく、かかわっている職員全員で検討することが大事です。そのことで課題の具体化も図れます。Aさんの場合、長期目標（1年間）は「困った状況のとき、自分から近くの教員や友達に聞くことができる」、短期目標（2学期）は「困った状況のとき、自分から支援学級の担任や友だちに聞くことができる」としました。

ポイント③ 長期目標と短期目標を踏まえた単元の計画

困った状況を意図的につくることのできる単元づくりを考えます。困った状況と言ってもAさんが自分で解決でき、成功体験を積めるような活動でなければなりません。Aさんは学級の友だちと友好的な関係を築いています。そこを使って学級でのゲーム活動を仕組むことになりました。一人が目隠しして他の子が誘導してパズルを完成させるゲームをベースにした単元を設定することにしました。



ポイント④ 学習指導案をつくる

この単元における全体目標、個々の目標、そして興味・関心をもつ学習活動や教材を考えます。パズルの題材は、学級で話し合っ決めてました。



ポイント⑤ 分かる授業を実践する

視覚的な提示の仕方や主体的な行動や発言を待つ余裕のある時間設定等を工夫し、「分かって楽しい」授業を目指します。

実際の授業実践では、相手から情報を求められたときに適切に答えられず、伝えきらないことが多く見られました。それでもゲームを完結させるために諦めずに粘り強く、伝える姿も見られました。自分が目隠しをしてパズルをする役のときには、聞きたいことを相手に上手に質問することができました。適切なタイミング、声の大きさ等に課題は残りますが、Aさんの自己評価欄には『もっと分かりやすく話さないと伝わらない』とありました。自分自身にどんなスキルが必要なのかを自分で見付けられたことは大きな成果だと思います。

『自立活動の指導』は、指導目標よりも活動内容が優先されることが多く、とかく『活動ありき』になりがちです。個々のつけたい力を明確にした上でどのような授業を仕組めば有効なのかを考えることが基本です。そうすることで目標がより具体化され、さらに評価もより明確にできます。

